



ツバキ (椿)



日本のツバキは日本の固有種ヤブツバキ *Camellia japonica* から改良によって得られた様々な品種の総称だそうである。属名 *Camellia* は宣教師で植物収集家でもあったカメル (*Georg Josef Kamel*) に因むと言う。英語名も *camellia* である。花は2月半ばから咲き始める。本学では工

学校法人中部大学 監事 太田明德



法庵の爛柯軒北側に、いくつかの品種がワビスケなどとともに植えられている。25号館中庭にも花色の異なる株がある。「椿」は中国では別種の植物であり、日本でツバキに当てたのか、国字の可能性もあるらしい。なお、同属のサザンカと違い、ツバキの雄しべは房状で、花卉はばらばらにならず、ガクを残して丸ごと落ちる。

江戸時代には武家に嫌われたというのは俗説らしい。さもないければ「椿三十郎」という映画は生まれなかったろう。豊臣秀吉、徳川秀忠など愛好家は多かったそうである (Wikipedia)。江戸時代には枝変わりと近縁種との交配から多数の品種が作り

出されたようである。18世紀半ばにはヨーロッパに紹介され、花の無い季節に咲くこともあって人気を呼び、*japonica* 系統だけでも3000品種に及ぶという。英語で花言葉は「*admiration*」、「*perfection*」だそうで、評価は高い。

19世紀半ばには小デユマの「椿姫」が生まれている。

参考)

- ・「花の西洋史事典」アリス・M・コーツ、白幡洋三郎、白幡節子訳、八坂書房2008
- ・「朝日百科」「世界の植物」第8巻、朝日新聞社1997
- ・「世界有用植物事典」堀田満他編、p1138、平凡社1989